

以文社

新刊のご案内

02月27日(取次搬入)発売予定!

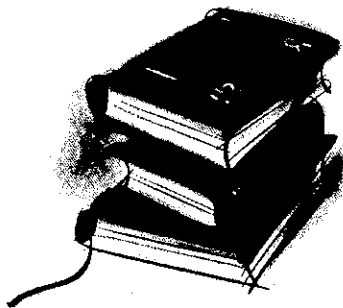
上野修、米虫正巳、近藤和敬 編

主体の論理・概念の倫理

二〇世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義

— コギトなき哲学の源流! —

近年、哲学研究のなかで参照されることはあっても本格的に言及されることがなかった17世紀の哲学者スピノザ。本書はフランスでのアルチュセールの〈スピノザ集団〉、ラカン、バディウが関与した『分析手帖』、ブランシュヴィックからカヴァイエス、ヴェイユマンへとつながる「概念の哲学」の系譜を辿ったわが国はじめての本格的なスピノザの研究。



【目次】

第一部 〈概念〉

導入 カヴァイエス、エピステモロジー、スピノザ

第一章 一つの哲学的生成—ブランシュヴィックからカヴァイエスへ

第二章 ジャン・カヴァイエス—概念の哲学—その下部構造の諸要素

第三章 カヴァイエスとスピノザ『エチカ』のあいだに見出しうる一つの関係

第四章 ヴェイユマン『代数学の哲学』とスピノザ『エチカ』の幾何学的秩序

第二部 〈主体〉

導入 エピステモロジーと精神分析

第一章 構造と主体の問い

第二章 ラカンの「エピステモロジー」における真理の探究について

第三章 ラカンにおけるスピノザのプレゼンス

第四章 ラカンと数理論理学

第五章 概念の哲学・精神分析・生命の哲学の知られざる結節点

第三部 〈生〉

導入 生命のエピステモロジーとスピノザ主義

第一章 概念の哲学から生命の哲学へ

第二章 カンギレムとヘーゲル

第三章 ドゥルーズにとってのスピノザ

第四章 構成主義としての哲学と内在としての生

第四部 〈現在〉

第一章 現代英語圏におけるスピノザ読解

鼎談 総括と展望

【コラム】

【編者】

●上野 修 (うえの おさむ)

大阪大学大学院文学研究科教授

●米虫 正巳 (こめむし まさみ)

関西学院大学文学部教授

●近藤 和敬 (こんどう かずのり)

鹿児島大学学術研究院法文学系准教授

A5判 上製カバー装 488頁 本体価格:4,600円 (定価:4,968円)

希望陳列コーナー:哲学・現代思想

以文社 ISBN 978-4-7531-0338-6 C0010 本体価格:4,600円 (定価:4,968円)

帳合・番線	ご希望冊数	書名
		主体の論理・概念の倫理 二〇世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義 上野修、米虫正巳、近藤和敬 編

※指定配本の都合上02月19日までにFAXまたは電話にてご返信お願い致します。